

災害時の情報受信・発信

【内容】第5学年総合的な学習の時間 「発信してよい情報を見分けるには？」

【使用アプリ】ロイロノート、Google Meet

【事例紹介】

●石巻市とつないでのオンライン学習

5年生は、総合的な学習の時間に防災について学習してきた。これまで石巻市の方々とGoogle Meetを活用することで、被災した方々の生の声を聞かせていただくことができ、学習を深めることができた。今回も2月に石巻日々新聞社の平井さんとオンラインで結び、災害時の情報の受け取り方や発信の仕方について大切なことを教えていただいた。

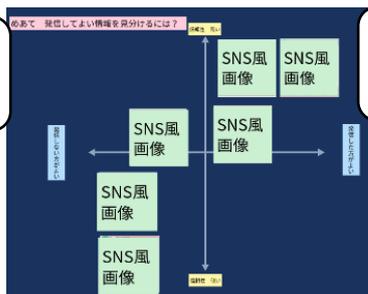
●研究授業「発信してよい情報を見分けるには？」

東日本大震災時にも、流言で被災した人たちがとても困ったというお話を聞き、災害時の情報の受信・発信については、学習しておかなければならない内容であると考えた。そこで、被災した人々の不安な気持ちに共感し、情報をどう受け止めればよいかを考えさせた。台風時に出された6つの情報（SNS風画面カード）に時間や発信者、発信内容とともに、「いいね」など数の情報をのせ、児童にどの情報の信頼性が高いか、また発信してよいものかどうかをロイロノートのシンキングツールを使って整理させた。整理した内容をもとに、グループでホワイトボードに発信してもよい順に並べさせ、根拠となった理由を書かせ発表させた。オンライン学習を想起させることで、より効果のある授業となり、災害時も誰かを傷つけるツールではなく、誰かの命を守るためのツールとして活用してほしい思いを伝え、学習を深めることができた。

〈オンライン学習の様子〉

〈シンキングツールを使って整理〉

〈話し合いの様子〉



【終わりに】

話し合いの場面では、言葉でのコミュニケーションを大切にしたいと考え、ホワイトボードを活用した。ICT 機器との併用により、話し合いを充実させることができた。これまで数回行ってきたオンライン学習は、学習を深めるためにとっても有効である。今は、個人的なつながりで外部の方とオンライン学習を行っているので、オンライン学習の講師となる人材バンクなどがあると誰でもオンライン学習に取り組めると思う。

☆教育委員会指導主事より☆

オンラインで遠方の学校や施設とつなく授業が増えました。それぞれが学習したことを発表し合う場面でとてもよい機会となっていると感じます。同世代で話しやすい上にお互いの地域のことをよく知らない存在は身近にはいません。また、ゲストティーチャーとオンラインで接続し双方向の会話をするには、その目的を明確に位置付けることで多くの学びにつながると思います。ですが、今のところ分かりやすい人材バンクがないのが実情です。講師探しでお困りの際は市教委まで御連絡いただければ一緒に探します。